

# 介護

## の現場から

### その41

池幸園では、利用者の方が、日々の生活の中で主人公であり続け、人生の最後まで自分らしく生活できるようにと願っています。私たち介護員が常に心掛けていることは、事故防止の取り組みです。大なり小なりの事故があるたびに利用者の方やご家族の方へ大変申し訳ないことをしたと、反省と謝りの気持ちでいっぱいになります。高齢者の転倒・転落は「あー、痛かった」では済まないこと



が多いからです。高齢者に多い骨粗しょう症があると軽い尻もち程度でも骨折を起してしまつこともあります。以前、こんなことがありました。Kさんは、入所したときは寝たきりの状態でベッドから離れようとせず、声を掛けてもうなずく程度で元気のない様子でした。ある日の夕暮れ時、ベッド脇のテレビをじっと見つめている様子に巡回

池幸園介護課長 佐藤きく子

## 事故の予防と予知力

の介護員が気づきました。放映が「水戸黄門」だったので、介護員の引き継ぎで「水戸黄門」のある日はチャンネルを合わせるように申し送りされました。数日後、テレビを見ていたKさんが、「あれが悪者だ!」と自分から介護員に話しかけてきたので、「Kさん、すごい。どうして分かるのですか」と尋ねると、「一生懸命に自分の思っていることを話してくれました。正義の味方、黄門様が高齢者の身体機能を変えるほどの力を持っていたと

# 常に防止を心掛け

はさすがに長寿番組と感心しました。

楽しむにもなっています。楽しいものでも大きなショックも受けてきました。

それをきっかけに、ずいぶん、Kさんと会話ができたKさんが事故を起こせるようになったのです。いけるようになったら、実は甘いようかんが好物とか、野球の観戦が好きとか、いろんな趣味を知ることができました。従業員が押していた車いすも、自分で動かして食堂へ出入りするようになり、家族もそして介護員も意欲と元気が出てきたことをとてもうれしく思い、また



ミニ運動会では綱引きもして楽しみます。

せた医療機関の受診を行います。一刻を争う場合は、救急で専門医に搬送します。

事故は、私たち介護員も利用者の方とともに痛みを共有する苦しみです。「ドン」と音がすると、利用者の方の転倒ではないかと胸騒ぎがします。介護員にとって震度6以上に匹敵するくらいの大事件になることがあるからです。

事故を最小限に食い止められるように、池幸園内の事故防止検討委員会で事故を詳しく分析・検討、そして統計し、まとめて報告します。それを基に危険予知力を高めるための研修会等も積極的に開催しています。利用者のみならず、笑顔で寄り添いながら、「サービスの質」の向上のために日々努力をし続けていきたいと思えます。

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。